英語の授業におけるTOEICに対する取り組み

中島　直樹

1.　はじめに

平成15年７月と翌16年１月の２度にわたり，城西大学女子短期大学部においてTOEIC Bridgeテストが実施され，１年生のほとんどが受験した。本学では数年前より入学時の４月に英語力調査（プレースメント・テスト）を行い，その調査結果を基にして一年次の英語の必修科目であるプラクティカル・イングリッシュとカレント・イングリッシュを能力別のクラス編成にし，これまで以上に授業の効率化と学生のレベルアップを図ってきたが，それぞれのクラスで前期・後期の授業を終えた後の７月末と翌年の１月末に，ひとりひとりの学生がどの程度英語力が伸びたかを見るために昨年度よりTOEIC Bridgeテストを実施している。また，７月の試験結果を基にして後期のクラスを編成しなおし，学生がより適切なレベルのクラスで授業を受けられるよう配慮し，授業の成績とTOEI CBridgeの成績を総合して評価することにもなった。

本論は，本年度の英語の授業におけるTOEIC（Bridge）に対する取り組みに加えて，本学学生の英語力調査を参考にしながら，１回目の結果と２回目の結果を比較することにより，どのような勉強をして，どういった学生生活を送った学生が，どれだけスコアが伸びたかということを後日実施した学生との個別のインタビューを参考にしながら調査したものである。

2.　TOEIC Bridgeテストの特徴

TOEICは約50カ国で実施されている世界共通の国際コミュニケーション英語能力テストであり，評価は10点から990点までのトータルスコアとリスニング，リーディングのセクションスコア（各５点～495点）で示され，その評価基準は毎回のテストによって変化することなく常に一定であるとされている。企業では新入社員のレベルチェック，英語研修事前・事後の効果測定，海外出張・駐在基準，昇進・昇格基準など，大学・短大では学生の就職支援，単位認定，推薦入試などに活用されている。

TOEIC BridgeはそのTOEICへの掛け橋という意味を込めて，基礎的な英語コミュニケーション能力を測定する世界共通のテストとして開発された。TOEICスコア450点以下の初・中

級レベルの英語能力を評価するテストであり，結果は合格・不合格ではなく，リスニング，リーディング（各10点～90点）とトータルスコア（各20点～180点），および5分野3段階のサブ・スコアで表される。テスト問題数と時間はTOEICの半分に設定（1時間・100問，リスニング25分間50問，リーディング35分間50問）されていて，TOEICよりも平易で身近なコミュニケーション場面や素材をテスト問題に採用している。リスニングセクションの出題スピードはTOEICより遅く，ネイティブスピーカーが注意深く話す際のスピードと同じである。TOEICよりも易しく，日常的で身近な問題を扱っていて，時間も短く，基礎的レベルの英語能力測定に照準を合わせて設計されたテストであるので，社会的な認知度はTOEICには及ばないが，本学の学生にとってはこちらの方が向いていると思われる。

3. 授業におけるTOEIC（TOEIC Bridge）に対する取り組み

今述べた通り，今年度も4月に英語力調査を実施し，経営情報実務学科と現代文化学科混合で，基礎力のあるクラスから順にA，B1，B2，B3，Cに分け，能力別クラス編成で授業を行い，教育的効果を上げられた。TOEIC Bridgeのスコアアップという具体的な目標を設定したため学生の勉学意欲も高まった。プラクティカル・イングリッシュ，カレント・イングリッシュ共にTOEIC問題を扱っているものを教科書として使用した。通常の授業に加えて，今年度もマルチメディア教材を活用した授業を随時行ったが，学生の反響はこちらが思っていた以上に大きかった。以下に実際に使用した教材（すべてCD-ROM）について説明する。

・TOEICテストパーフェクト入門

「リスニング強化プログラム」,「リーディング強化プログラム」,「語彙・イディオム増強プログラム」,「これだけは知っておきたい文法事項32」の4つのプログラムから成り，非常に使いやすく，レベルも本学学生に合っているので主にこれを用いた。ナチュラルスピードと速聴の2つが用意されているが，前者で十分にTOEICに対応できる。

・TOEICテストスーパー模試600問

パーフェクト入門では少し物足りない学生が使用した。実際のTOEICテストとまったく同じ形式で学習できる。リスニングスピードは少々速いが，解答を選ぶとトランスクリプションと質問の英文とそれらの全訳が表示され，実に便利である。 解答・解説も丁寧で分かりやすい。

・TOEIC実践模試テスト

スーパー模試600問とほぼ同じ形式・レベルであるが，その都度間違えた問題のチェックが

できないところが不便であった。出題問題の質はかなり良い。自宅学習用に貸し出すことが多かった。

・Viva ! San Francisco

旅行編と留学編の2部で構成されている。プロのスタッフが現地ロケを敢行して撮影しており，開放感と美しさに溢れたサンフランシスコを満喫しながら楽しく英語が学べる。本学のLL教室では残念ながら使用できなかったので，これも希望の学生に貸し出した。

・Oxford Interactive Word Magic

絵本を読んでいる感覚で英語が学習できるので，英語に対して拒絶反応を示してしまう学生に主に用いたところ，ほとんどの学生が目を輝かせながら取り組んでいた。この教材にはできない学生を引き付ける魅力があると思う。

・Power Words（Level 1～4）

英語の基礎をなす必須単語から読解の基礎を固める英単語までを無理なく学習できる。かわいいキャラクターと楽しいゲームが用意されているので，これも英語に自信のない学生に人気があった。

これらのマルチメディア教材を活用した授業に加えて，今年度は正規の授業以外に特別クラスを作り，Internet Navigwareというネットワークを利用した英語学習ソフトを使って学生を指導した。これについては，後で詳しく述べることにする。

4.　今年度のTOEIC Bridgeテスト結果

本年度のTOEIC Bridgeテストの結果は次の表の通りである。平均点の後ろのLはリスニングセクション，Rはリーディングセクションであり，それぞれ90点満点，全体で180点満点のテストである。表1が第1回目のテスト結果，表2が第2回目のテスト結果である。

表1　第1回TOEIC Bridgeテスト結果（平成15年7月に実施）

学　　科	受験者数	平均点（L）	平均点（R）	総合平均点
経営情報実務	41名	53.1点	50.6点	103.8点
現代文化	12名	50.3点	48.0点	98.3点
全　体	53名	52.5点	50.0点	102.6点

表2　第2回 TOEIC Bridge テスト結果（平成16年1月に実施）

学　　科	受験者数	平均点（L）	平均点（R）	総合平均点
経営情報実務	41名	54.0点	50.4点	104.4点
現 代 文 化	13名	51.3点	48.1点	99.5点
全　体	54名	53.4点	49.8点	103.3点

第1回目と第2回目を比較してみると，リスニングセクションでは成績が上がり，リーディングセクションでは僅かに下がっていることが分かる。学科別に見ると，経営情報実務学科においては0.6点，現代文化学科においては1.2点，全体では0.7点の総合平均点の上昇にとどまった。全体のアップ率は約1％であり，昨年には及ばない結果となった。昨年同様，クラスに応じてそれぞれの英語担当教員が必要な文法･語法を基礎から教え込み，リスニングテープを聞かせ，マルチメディア教材を活用した授業を熱心に行ったが，このような結果になった。来年度に向けて，学生にとってより効果の上がる授業のやり方を英語担当者間で議論・検討していく必要があると思われる。

5.　特別クラスの結果及び学生の声

先ほど述べた通り，今年度は英語の特別クラス（学習会）を作り，Internet Navigware（富士通製）というネットワークを利用した英語学習ソフトを使って学生を指導した。TOEIC Test 470点対策コースのレッスン学習（Lesson 1～Lesson20）とパート学習（Part 1～Part 7）をそれぞれの学生の空き時間にやってもらい，全体の集まりの時に問題の解答・解説についてチェックし，指導を行った。今年度の TOEIC Bridge の全体のテスト結果は僅かな上昇にとどまったが，この特別クラスに参加した学生は，多くが全体の平均以上に成績を上げていたのでここで報告する。また，筆者が実際に担当した英語クラスで，入学時に受けた英語力調査の問題を，全く同じ条件で後期の終わりに再度受験してもらったので，その結果にも同時に触れることにする。特別クラスに参加したすべての学生を網羅しているわけではないので，データとしては完全とは言えないが，参考にはなるはずである。

まず，1年生から見ていくことにする。Aさんは，入学時に行われた英語力調査（第1回目）が72点，後期末の第2回目が70点であり，ほぼ現状維持であったが，TOEIC Bridge に関しては，第1回目が114点，第2回目が120点であり，6点アップした。彼女は，「特別クラスでの英語の学習は自分のペースで進められるのでよかった。TOEIC も受けてみたくなったが，力不足なことも分かったので，もっとしっかり勉強してからチャレンジしたい」と言っていた。とてもいい刺激になったようである。

次に女子駅伝部で活躍中のＢさんは，第１回目の英語力調査が86点，第２回目が92点であり，かなりアップした。TOEIC Bridgeでも，第１回目が116点，第２回目が122点であり，こちらでも力の伸びが証明された。正規の授業も特別クラスも一生懸命に取り組んでいたので，よい結果が残せてよかったと思う。彼女は女子駅伝部の練習と短大の授業とを見事に両立させている。

Ｃさんも女子駅伝部であるが，TOEIC Bridgeに関しては，第１回目が110点，第２回目が106点と僅かに点数を下げてしまった。

ＤさんもＢさん同様に真面目な態度で取り組んでいた。第１回目の英語力調査が72点，第２回目が86点であり，相当力をつけた。TOEIC Bridgeも122点から128点へと順調な伸びを示した。特に特別クラスのリーディング問題で多くの熟語を覚えることができてよかったと言っていた。いつも目を輝かせながらパソコンに向かって英語の勉強をしていたので，更に実力がつくように来年度も指導するつもりである。

Ｅさんもリーディング問題がためになったと言っていたが，その通り，リーディングセクションの点数がかなり上がっていた。114点から122点と８点上がったが，すべてリーディングセクションでの上昇であった。

次に２年生を見ていく。Ｆさんは入学当初からある程度基礎力があり，特にリスニングセクションを得意としていた。第１回目の英語力調査では80点を取り，卒業時には88点まで上昇した。また，昨年10月に本学で行われたTOEICテストで645点を取り，全学でトップになることができた。

Ｇさんは入学時の英語力調査は56点であったが，卒業時には76点まで上昇した。自分の空いている時間に好きなだけできるのは効率的だったようである。

Ｈさんは入学当初より英語に非常に興味を持っていて，夏休み中にUCRのサマーセミナーに参加して貴重な体験をした。英語力調査では70点と初めからある程度基礎力があり，卒業時には84点まで伸びた。１年次に受験したTOEIC Bridgeでは，第１回目が98点，第２回目が120点であり，順調に成績を伸ばした。特別クラスで毎回音声を聞けたこととCD-ROMで楽しく勉強できたことがよかったと言っていた。

また，１年生の時は必修科目のプラクティカル・イングリッシュとカレント・イングリッシュがあったが，２年生になって英語の勉強をする時間が減ってしまったので，このクラスで勉強できてよかった（Ｉさん）とか，後期になって英語に接することがなくなったので参加できてよかった（Ｊさん）という意見もあった。ほとんどの学生が，学校だけではなくて，自宅でもできればもっとよかったという意見を言っていたが，それは指導する側でも感じたことであった。

6.　おわりに

特別クラスに積極的に参加し，熱心に英語の勉強をしたいと思っているような意欲的な学生を

伸ばすことはできたが，全体的なレベルアップという点については昨年度ほどの結果を残すことはできなかった。たとえどんなに基礎力のない学生でも毎時間音声を聞かせ，丁寧に解説をすればリスニング力は伸びるし，文法・語法を教え込み，それぞれのクラスのレベルに合った説明のしかたをすればリーディングの点も上がるはずであるが，こちらが期待していたほどの成果はでなかった。

来年度も能力別クラス編成で授業を行い，TOEIC Bridge テストのスコアアップを目標のひとつにしてやっていく予定であるが，授業方法等についてもっと効果的なやり方はないか，残された時間の中で検討していきたいと思う。